第12回三大学交流セミナーが開催されました

2019年 11月 03日

令和元年11月1日（金）、茨城大学農学部にて、茨城大学農学部、茨城県立医療大学との第12回三大学交流セミナーが開催されました。本セミナーは、連携協定を締結している三大学間の交流を目的に、年1回持ち回りで開催されており、今年度は茨城大学農学部が当番校で、257名が参加されました。

第一部では、茨城大学 三村信男学長、戸嶋浩明農学部長の挨拶の後、茨城大学創立７０周年を記念して、本年度の文化功労者を受賞された筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構長の柳沢正史教授による特別講演「睡眠覚醒の謎に挑む」が行われました。講演では、柳沢教授らが発見された睡眠/覚醒を制御している神経伝達物質「オレキシン」の作用機構と疾患との関連、医薬品開発についての研究成果が紹介されました。

また、「茨城の食資源を活用した健康づくり～食がつなぐ農と脳～」というテーマで、茨城大学農学部 豊田淳教授より「茨城県地場産品を世界に売り出すための基礎研究～フクレミカンの例～」、当センター消化器外科 大城幸雄 講師より「Ｅ型肝炎の現状」、茨城県立医療大学 岸本浩 講師より「『食』がリハビリを支え健康寿命を伸ばす」と題してシンポジウムが行われました。また、茨城県営業戦略部 郡司彰 販売流通課長より「茨城をたべよう運動の取組について」、(資)廣瀬商店、府中誉(株)、(資)浦里酒造店 各社より「茨城の米と水」についての話題提供がありました。

第二部（交流会）では、茨城県立医療大学 永田博司学長、本学 石龍徳副学長の挨拶に続き、各大学から計10演題（茨城大3題、当センター3題、医療大4題）のポスター発表と(株)プリベンテックと(株)腸管免疫研究所による研究活動紹介があり、活発に討議が行われました。

第13回は、当センターが当番校で、令和2年度に開催予定です。